

大西先生

明日の会議には急用ができて出席できなくなりました。
申し訳ございません。

先日の資料に追加データがございます。
各国の状況をまとめた図がありました。

スウェーデンに関しては将来全廃予定とありますが、現地に問い合わせたところ、現在 12 基があり、その内利益効率の悪い 6 基をしかるべき時期に止めることだけが決まっているそうです。
全廃の計画を決めた、という事はないそうです。

ドイツに関しては、原発全廃後の手当の目処はなく、単に輸入する、とだけ書いてあると聞きましたが、その確認をしております。

次に化石燃料の問題ですが、2 つの資料を添付致します。

1 つは IEA の環境問題に関する資料で、全部で 266 ページございます。
(前回は簡単に口頭でご紹介いたしました。)

19 ページ目に Highlight があります。
そこにはこれまでに化石燃料を燃やしたために 6.5 million の premature death があつたと書かれています。

もう一方の資料はアメリカ化学会の学術誌である
Environmental Science and Technology

掲載の論文です。Abstract には世界の原子力発電は合計で 184 万人の air pollution-related death を防ぎ、64 ギガトンのグリーンハウスガスの発生を防いだ、と書かれています。

ここでの死者数は事故で危惧される数ではなく、既に亡くなってしまった数です。今もそのペースで死者は増えていると言えます。

このような観点や学術成果は無視できないと考えますし、学術の観点から検討する学術会議では特にそうであると信じます。

最後に、別タイプの原子炉（高温ガス炉、ADS など）について一度も検討したことがないように記憶しております。将来を考えるに当って、無視した報告で
よろしいのか危惧いたします。欧州、中国でどちらの研究も進んでいます。

定年退職前で予想以上の用務が発生し、大変申し訳ございませんが、欠席させていただきます。

大塚孝治